

―連携取組で育てたい人材像とは。

この取組で目指すのは、行動力や国際力などを身につけた、地球規模の視野を持ちながら地域の課題に主体的に取り組み解決できる、石川と日本の持続的成長に貢献できる人材の育成です。

―そのような人材を必要とする背景には、どのような課題があるのでしょうか。

石川では高齢化・人口減少が進む中で地域の活力維持が大きな課題になっています。各自治体では持続可能な地域社会の担い手となる人材を、地域経済界では国際競争力を有し活力ある地域経済の担い手となる人材を求めています。石川の地域活性化にはローカルとグローバルの両視点を備えた人材の育成が急務であり、県内全高等教育機関で取り組むべき重要なテーマとなっています。

―なぜこの19大学・短大・高専で連携することになったのですか。

本取組は、県内全高等教育機関及び県内全自治体・主要経済団体からなる大学コンソーシアム石川の活動が基礎となっています。ここではすでに大学等とステークホルダーとの協働の基盤・実績があり、かつ大学等間同士も単位互換事業等での強みを活かして連携してきました。この基盤があつてこそ、右の課題に力を結集できます。

―取組は5年間実施します。どのような計画を立てていますか。

平成24年度は、実施体制を構築します。平成25年度から「ジャスト・イン・タイム・システム」等の事業や「海外インターンシップ」等の各種教育プログラムを開発・試験実施し、本格的な実施期間を経て、平成28年度にはグローバル人材育成の継続的な仕組みを確立する予定です。また、取組の期間終了後も、大学コンソーシアム石川でこれら事業を継続していきたいと考えています。

―この事業に採択されたことで、新たにどのようなことができるようになりますか。

この取組では、新たに「フィールドワーク共同教育プログラム」「海外インターンシップ」等の体験型教育を行います。教育の内容は、行政・経済界からの助言を得て、行動力や国際力の向上に重点を置きます。各プログラム合わせて毎年50〜80人程度の学生が参加します。

―取組の中には、各大学等でこれまで行っていた活動のレベルアップを図るものもあると思います。それはどのようなものですか。

各大学等で行っていたフィールド教育・国際化教育、及び学生支援の充実を図ります。各種の事業グループで各校のプログラム充実を検討し、相互支援のしくみも構築します。毎年百人以上の連携校の学生が各校のプログラムに参加し、全学生が一定水準以上の支援を受けられるようにします。―連携の成果はどのような形で社会に示すことができるのでしょうか。具体的な成果指標のイメージはありますか。

学生は各種プログラムに参加すると行動力や国際力を身につけることができます。それらを総合したグローバルな能力の向上は、全プログラムをまとめた「課題解決型グローバル人材育成プログラム」のもとで点数化して確認し、修了証で「見える化」します。平成28年度までに修了者百人を目標に社会に送りだします。自治体や企業で広く活躍するよう全力で取組を進めてまいります。

ステークホルダーからのメッセージ

石川県知事

谷本 正憲

人口減少とグローバル化が進む中、持続可能な地域社会、国際競争力のある地域経済の担い手となる人材の育成は喫緊の課題です。

こうした中、地域を持続的成長に導く「グローバル人材」の育成を目指した取組が文科科学省から採択を受けました。この事業は、大学コンソーシアム石川が有する産学官の基盤と地域連携の蓄積を最大限に活かしたものであり、二十一世紀の学都石川の更なる発展に寄与するものとして、県としても大変心強く思います。

日本の将来を担うたくましい人材が本県から数多く輩出されることを心から期待しています。

